

1 切手とは

「切手のひみつ研究所」で切手を調べる前に、まずは切手の特徴と役割を確認してみましょう。ここでは、現在販売されている日本の普通切手と、最近発行されたさまざまな種類の特殊(記念)切手を展示します。特に、普通切手については、新しい料額、デザインの切手が昨年発行されたばかりですので、全種類知っているという方は、なかなかの切手通です。



普通切手 16 円
令和 6(2024)年

2 切手の技

切手 1 枚には、実にさまざまな印刷・加工技術が駆使されており、「小さな芸術品」とも言われます。その注目ポイントは、「色」です。国立印刷局には、職人技をもつベテラン職員がおり、どんな色でも自在に作り出すことができます。切手の印刷には、すべて特別に調合した色(特色)のインキを使うため、多種多様なデザインを精巧に再現することができるのです。「小さな芸術品」と言われる理由の一つが、「色」にあります。

ここでは、日本を代表する芸術作品を取り上げた特別な切手の貴重な重ね刷り工程を展示します。また、実際に切手の印刷に携わるプロが、逸品や思い入れのある切手を紹介します。ここでしか見ることでできない資料やプロのこだわりをぜひご覧ください。



「特別な色」の切手専用インキ



切手のプロが選んだ逸品
「風神雷神図屏風」
切手趣味週間 82 円
平成 30(2018)年



3 切手の知と美

「切手の知」とは、切手が知らせるメッセージやテーマのほか、切手から「知る」時代背景、情報等を指します。ここでは、関東大震災や切手収集ブーム、日本製の外国切手など、さまざまなエピソードにまつわる資料を展示します。

また、「切手の美」とは、国立印刷局の伝統技術等による精緻な表現、芸術性の高さを指します。ここでは、切手趣味週間、国際文通週間、国宝シリーズなど、日本切手の美を象徴する代表的な切手を取り上げます。

博物館＝知の宝庫、美術館＝美の宝庫ともいえる切手の世界をじっくりご堪能ください。



重厚感と迫力ある仕上がりの切手
第 2 次国宝シリーズ第 1 集
100 円 昭和 51(1976)年



4 珍しい切手

ある目的のために寄付金を付加した料額で販売される切手や、切手のプロも認める楽しいデザインの切手、きらびやかな特殊加工を使った豪華な切手など、珍しい日本切手を取り上げます。

一方、外国切手には、今や、ふつうの切手では物足りないとはかりに、さまざまな加工をした切手が生まれています。私たちの五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を刺激する切手や、紙ではない珍しい素材を使った切手、楽しいテーマの切手などを展示します。一部体験コーナーも設けていますので、ぜひ実際に見て動かして、切手をお楽しみ下さい。



会場では「海のいきものシリーズ」切手を一堂に会した「切手の水族館」を紹介
海のいきものシリーズ第6集
84円 令和4(2022)年

5 特別研究員証

ここまで、切手のひみつ研究所をじっくりご覧いただいた方を、「特別研究員」と認定します！会場で、「特別研究員証」を完成させて、記念に持ち帰りましょう。



会場での楽しみ